

■ 開設年度		■ 開講部局	
2022		共通教育	
■ 科目名			
戦後日本外交史			
■ 英語科目名			
The Diplomatic History of Postwar Japan			
■ 前後期	■ 開講区分	■ 科目形態	■ 単位数
後期	毎週	講義	2
■ (28年度以降入学生) 中分類		■ (28年度以降入学生) 小分類	
教養教育科目(教養基礎科目)		人文社会科学分野(選択科目)	
■ (27年度以前入学生) 中分類		■ (27年度以前入学生) 小分類	
b. 知力: 人文・社会科学		10. 法・政治を学ぶ	
■ 受講学部学科			
全学部			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
吉田健一		稲盛アカデミー	
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)	
099 - 285 - 3753		k5621643@kadai.jp	
■ オフィスアワー (授業時間外の対応)			
随時可 (但し、事前にメールによる連絡をください)			
■ 共同担当教員			
なし			
■ アクティブ・ラーニング			
5. 学習の振り返り;			
■ アクティブ・ラーニング (「その他」 の内容)			
■ アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中10回			
■ 理念 重要視する教育目標			
3. 論理的思考 1) 幅広い視野から課題の解決策を考えることができる			
■ 理念 教育目標			
3. 論理的思考 1) 幅広い視野から課題の解決策を考えることができる			
■ 理念 教育目標			
3. 論理的思考 2) 多様な情報の信頼性を論理的に説明できる			
■ 理念 教育目標			
3. 論理的思考 3) 自分の考えを論理的に話し、書くことができる			
■ 授業概要 (目的・内容・方法)			
● 全15回の授業を対面形式で実施する。 1. 授業の目的は、戦後の我が国の外交史について、まずは、基本的な知識を身につけることである。そのために、担当者 (吉田) は出来るだけ、中立の立場で講義を心がけるつもりである。採用する教科書もオーソドックスなものである。また、講義内容がある立場からだけの見解に偏らないように、採用する教科書以外の参考書の知見も講義で紹介する。知識を身につけることと、自身の意見、見識を持つことの両方を目的とする。 2. 授業の内容は、指定したテキストを解説するが、その際、受講生は事前にテキストを一読してきていることを前提に、テキストに記述していない細かなエピソードなども解説する。その上での担当者の個人的な問題意識をも講義で述べる。内容は1945 (昭和20) 年から今日 (2017年) に至るまでの日本外交を多面的な視点から概観するものである。 3. 授業の方法は指定したテキストを使いながら解説して行くが、予め配付する要約資料も活用する。			
■ 学習目標			
1. 戦後の日本外交の概要を説明できる。 2. 特に対米関係について、どのようなことがあったのかを説明できる。 3. 今日の外交をめぐる様々な問題がいつ頃から顕在化し、過去にはどういった問題が存在し解決されて来たかを説明できる。			

4. 短期的な視野で日本外交を見るのではなく、大きな視野で日本外交の変遷を見る能力を身につける。

5. 昨今の国際情勢の中で今後の日本外交について自分なりの意見、見識を持つことができる。

■ 授業計画・試験の有無（16回〔初修語は31回〕に分け、回数、授業内容、自学自習等）

1. はじめに—戦後日本外交の構図—

2. 占領下日本の「外交」1 米国の対日占領政策・占領下の日本外交

3. 占領下日本の「外交」2 占領改革をめぐる交渉

4. 1950年代の日本外交1 サンフランシスコ講和への道・吉田路線とアメリカ

5. 1950年代の日本外交2 鳩山外交と日ソ国交回復・岸政権と安保改定

6. 経済大国の外交の原型1 戦後憲法体制の確立・経済大国への道

7. 経済大国の外交の原型2 日米パートナーシップの展開・日韓国交正常化・沖縄返還

8. 自立的協調の模索—1970年代の日本外交—1 佐藤政権の外交・デタント期の日本外交

9. 自立的協調の模索—1970年代の日本外交—2 福田・大平政権の外交

10. 国際国家の使命と苦悩—1980年代の日本外交—1 日米「同盟」への道・日米関係の同盟化とライバル化

11. 国際国家の使命と苦悩—1980年代の日本外交—2 日本外交のグローバル化・冷戦の終焉

12. 冷戦後の日本外交1 冷戦後外交の模索

13. 冷戦後の日本外交2 東アジアの経済危機と日本・21世紀の外交

14. 戦後日本外交とは何か1 戦後日本の3つの政治・外交路線・吉田路線の本流化

15. 戦後日本外交とは何か2 日米外交の深化と外交地平の拡大

16. 期末レポート

■ 授業外学習（予習・復習）

予習：テキスト及び配付した要約資料の次回の講義の部分を一読して講義に臨むこと。

復習：授業で学んだ内容を振り返り（配布資料を読み返し）、感想を1週間以内にmanabaで提出すること。

■ 受講要件

指定した教科書を必ず買うことを受講要件とする。受講生は戦後日本外交史に関心があることが望ましい。本講義は共通教育であるが、教科書は専門科目の水準のものを使用する。明確な問題意識をもっている受講生を歓迎する。

■ 成績の評価基準

毎回のフィードバックシートの提出（50%）、期末レポート（50%）。

■ 教科書

- (1) 書名：戦後日本外交史
- (2) 版：第3版（第3判補訂版）
- (3) 著者等：五百旗頭真（編）
- (4) 出版社：有斐閣
- (5) 出版年：2010
- (6) ISBN：978-4-641-12407-3

■ 参考書

細谷千博『日本外交の軌跡』（日本放送出版協会・1993年）、井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店・2003年）、入江昭『新・日本の外交—地球化時代の日本の選択—』（中公新書・1991年）、入江昭『日本の外交—明治維新から現代まで—』（中公新書・1996年）、増田弘『石橋湛山—リベラリストの真髄—』（中公新書・1995年）、孫崎享『戦後史の正体—1945 - 2012—』（創元社・2012年）、孫崎享『アメリカに潰された政治家たち』（小学館・2012年）

■ 地域志向科目の区分（平成27年度入学生用）

■ 地域志向科目の区分（平成28年度以降入学生用）

■ 実務経験のある教員による実践的授業

■ SDGs

■ その他

コロナの感染状況によっては遠隔講義に移行する可能性もあります。